



カワウ被害防止対策への支援

- 野生鳥獣の適正な管理により、農林水産業被害・生活環境被害の低減を図り、人と野生鳥獣との共生を目指す。

【提案・要望先】農林水産省、環境省

1. 提案・要望内容

カワウの試行的捕獲の継続的支援および新技術の開発・研究

- 影響が全国的に拡大しつつある中、主要な繁殖地となっている本県が行う対策への継続的な支援
- 水産業被害・生活環境被害低減に資する効果的・効率的な捕獲技術の研究・開発および技術の普及支援
- 銃器の使用が困難な地域における銃器によらない捕獲手法の研究・開発

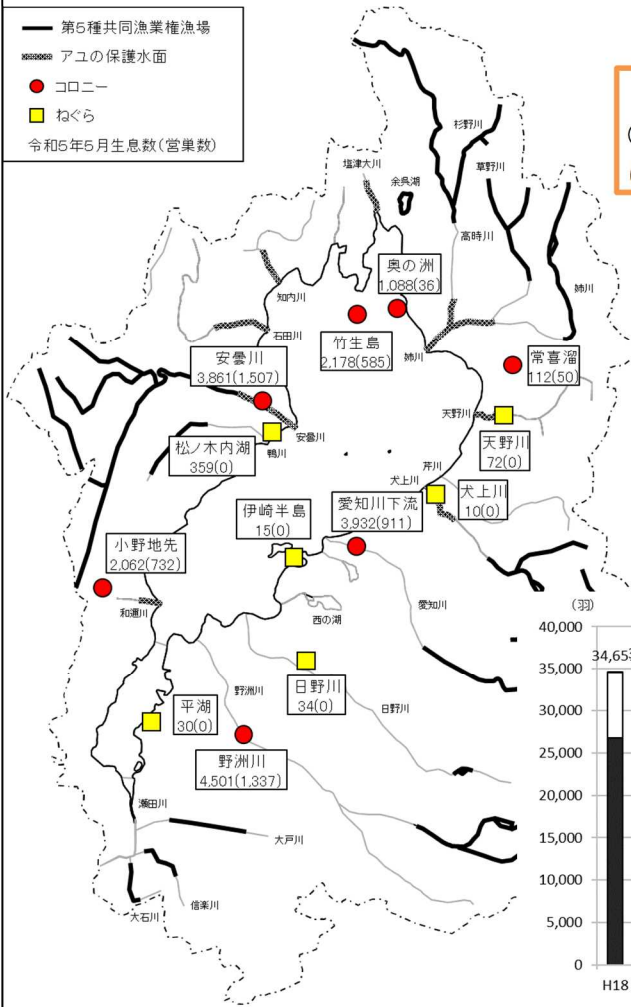
2. 提案・要望の理由

カワウの試行的捕獲の継続実施および新技術の開発・研究

- 本県は、他府県と比較して、大規模な営巣地を抱えており、全国のカワウ生息数に与える影響は大きいとされている。
- 本県では、捕獲により春期生息数が約 38,000 羽（平成 20 年）から約 7,000 羽（平成 27 年～令和 2 年）まで減少したが、内陸部への分散化に伴い、令和 5 年春には 18,000 羽を上回るまで増加。
- 一大繁殖地である滋賀県では、これまで銃器捕獲に取り組んできたが、住宅地近くなどに大規模繁殖地が形成され、銃器を使用できないことから、個体数調整を図ることが困難な状況。
- こうした中、住宅地に隣接して形成されたねぐら・コロニーの 1 つで、令和 5 年度は、モデル事業として捕獲の検証等を実施。
- 令和 6 年度は、環境省の施行委任事業として、捕獲の検証事業を継続しているが、技術の確立および「集落近辺における銃器捕獲安全管理マニュアル」の精査のためには、令和 7 年度においても引き続き、支援をお願いしたい。
- これまで国等で開発された対策手法は、小規模なコロニーを対象としており、本県で見られるような 1,000 巣前後にもなる大規模コロニーには適さない。
- 大規模なねぐら・コロニーでの効率的な個体数削減につながる銃器によらない捕獲手法の開発が急務であることから、国において技術開発に取り組まれない。

(本県の取組状況と課題)

カワウ捕獲技術の研究・開発による支援等

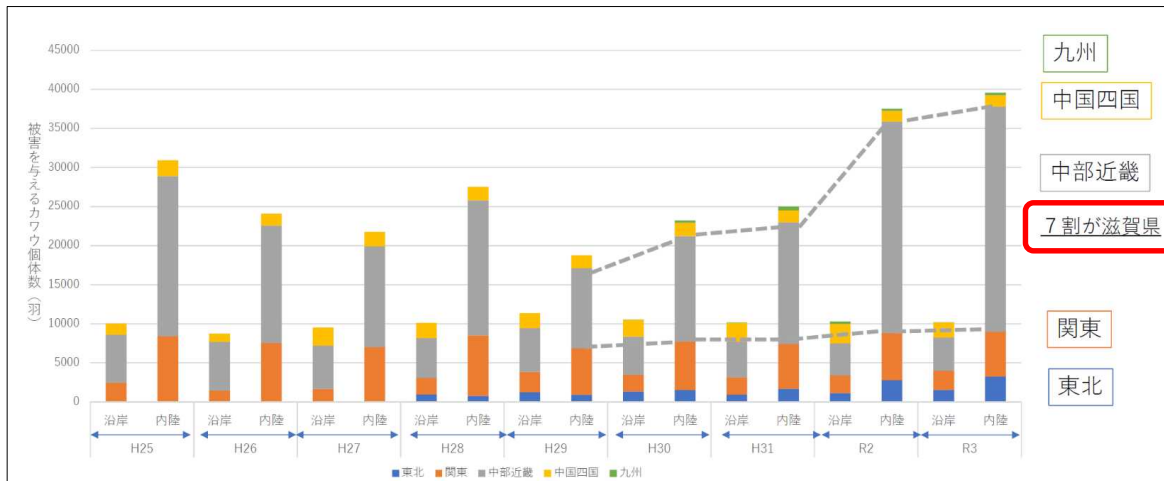
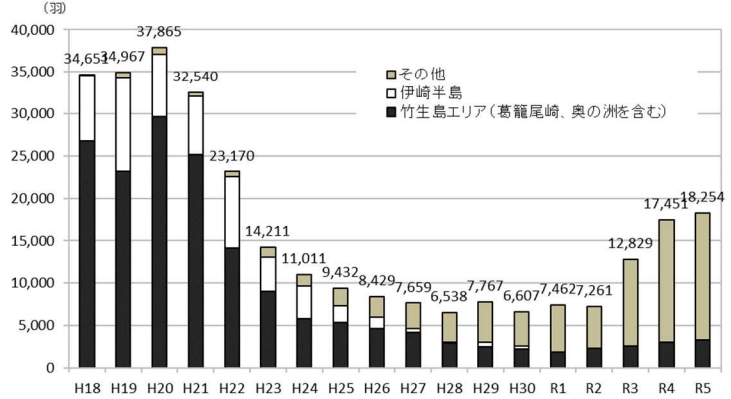


(カワウ)

○内陸部の河川等へ生息域が分散するとともに、生息数が再び増加に転じている。



<滋賀県カワウ生息数の推移>



地域別の被害を与えるカワウ個体数の推定結果

(令和5年度特定鳥獣(カワウ)の保護管理に係る研修会、水産庁作成資料抜粋)

担当：琵琶湖環境部 自然環境保全課鳥獣対策室
 TEL 077-528-3489
 農政水産部 水産課 TEL 077-528-3873